

2022年 5月 06日

2021年度 ALL DOSHISHA 共修プログラム
実施プロジェクト成果報告書

プロジェクトタイトル
DOSHISHA U~ #GotU ~Life Guide for International Students~

プロジェクトメンバー			
役職	氏名	学科専攻	学年
リーダー	James Edward Hernandez II	電気電子工学専攻	D3
サブリーダー	大塩蓮	情報システムデザイン学科	B1
メンバー	Juntao Zhu	情報工学	M2
メンバー	Arantxa Danielle Montallana	電気電子工学専攻	D1

支出経費			
支出項目	単価 (円)	数量	小計 (円)
製作費	100000	1	100000
消費税			10000
合計			110000

プロジェクトの目的と狙い
<p>プロジェクトの目的としてはまず日本に留学をするとなった時に生まれる様々な不安に対して同志社大学理工学部では実際どのようにその不安を解決できるのか、どのような生活が待っているのかを示すことによってより多くの留学生に来てもらうということである。このプロジェクトは、オンラインと印刷の両方の方法で情報を利用できるようにすることも目的としている。このように、このプロジェクトは、同志社内の学生だけでなく、同志社大学の学生の生活について学んだい大学外の将来の学生にも対応することを目的としている。</p>

プロジェクトの実施内容（1 ページ以上）

- 取り組んだ実施内容を時系列にかつ具体的に記入してください。
- 誰がどのような役割で何をしたかも分かるように記入してください。
- 適宜、取組状況の画像データを貼付いただいても結構です（様式の半分以内の分量とします）。

下のような流れで活動した

2021年6月28日、大平印刷による第1回目のワークショップが行われた。ワークショップでは、本プログラムの目標の一つを実現するために、どのように適切なプロジェクトを考えるか、その方法について議論した。その後、プロジェクトのゴールと、そのゴールを達成するための主な方法を話し合うミーティングが行われた。その後、メンバーはグループに分けられ、各グループはこれから進めるプロジェクトのアイデアを出し合った。この段階で、「同志社の留学生を増やす」という目標が決定した。さらに、留学生に共通する悩みを、外部のオンライン文献から、探しより具体的な内容について議論した。

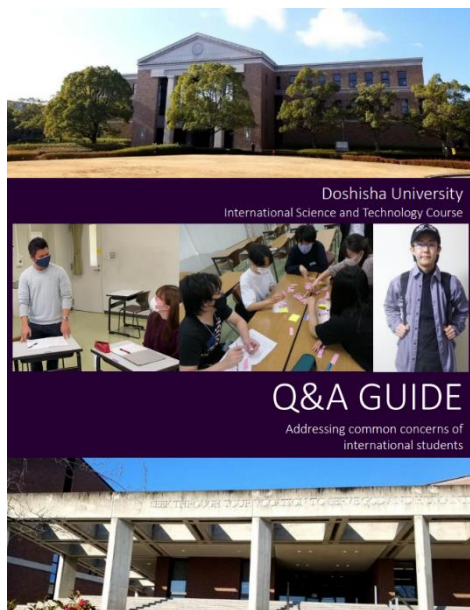
9月15日、第2回目のワークショップが行われた。SWOT分析によるコンセプトプランニングや、メンバーが思いつくプロジェクトのフレームワークの作り方などを学んだ。9月24日、第3回目のワークショップを開催され、企画書の作成から、完成した書類をどのように扱うか、大平印刷への委託の方針までの流れを確認した。また、説明会のスケジュールや、ラフ原稿の提出についても確認した。

10月29日、企画説明会を実施した。内容としては具体的に、VideoとQ&Aパンフレットの作成、想定される手法、予算、プロジェクトの流れなどを説明した。同じ目標を持つ2つのグループに分かれ、1つは同志社の留学生の日常を、もう1つは同志社の留学生が抱える共通の悩みを解決するためのパンフレットを作成することになった。プロジェクト名「Doshisha U Got U」もこの日に決定した。11月11日に行われた第4回ワークショップでは、パンフレット制作の進め方やラフ案作成、原稿提出の締め切りなどを話し合った。パンフレットのデザイン見本も配布された。

11月24日には、ISTC事務局とオンラインディスカッションを行い、掲載内容の中身や正確性についての意見を伺った。ISTC事務局からのフィードバックを受け、メンバーは内容の修正を進めた。また、12月13日には、留学生課(OIS)からもフィードバックとコメントを求め、ハイブリッド型(オフラインとオンライン)のアポイントメントを取った。それに合わせて、メンバーも内容を修正した。

修正後、12月14日に中間発表会、12月17日に山根先生とのディスカッションを行った。このディスカッションで、今回のコンテンツに関連する内容を盛り込むことができた。このパンフレットは、最終的に承認されるまでに、何度も見直しと修正が行われた。ISTC事務局とOISの両者からの修正は、主に電子メールで行われた。12月24日に第一稿が提出された。ISTC事務局およびOISからのコメントを確認した後、再度修正し、1月14日に第二稿提出した。この間、パンフレットの本文の修正に加え、デザインにも着手した。1月20日、ISTC、OIS、大平印刷さんに第二稿の修正を提出した。2月に入ってか

らも、パンフレットのデザインについて検討を重ね、2月1日に第三稿を提出した。そして、3月3日に最終版を提出することができた。3月18日には、このパンフレットをより多くの人に知ってもらうための第5回ワークショップが開催された。パンフレットの概要について、プロジェクトのメリットと、パンフレットの利用者に与える影響について、簡単なプレゼンテーションを行った。このワークショップの収穫としては、グループメンバーがPRと報告の違いを習い、いくつかのPR技術も習得された。



Cover page of the pamphlet

プロジェクトの成果（1 ページ以上）

- 当初計画していた達成目標と比較して成果を記入してください。
- プロジェクト開始時からどのような能力が向上したかを記入してください。
 - ・グローバルマインドの3要素（①グローバルな視野、②多様性の尊重、③異文化理解）
 - ・社会人基礎力の3つの能力と12の能力要素 ①前に踏み出す力（主体性／働きかけ力／実行力）②考え抜く力（課題発見力／計画力／創造力）
③チームで働く力（発信力／傾聴力／柔軟性／状況把握力／規律性／ストレスコントロール力）
- 当初計画していた目標に至らなかった場合は、①何が実施・実現できなかったのか。②その要因は何か。③考える解決策 を具体的に記入してください。

このプロジェクトの目標は、日本の学生生活をより分かりやすく説明することで、より多くの外国人留学生に同志社大学に入学してもらうことである。そのための一つの方法は、日本での生活に関する一般的な質問、あるいは生活の中で見つかる具体的な質問に対する答えを提供することである。また、このような情報を入手しやすくすることにも取り組みたいと考えています。そこで私たちのチームは、印刷物とオンラインの両方で利用できる Q&A パンフレットを作成することを考えた。

このプロジェクトでは、すべてのタスクがチームワークを必要とする。目標や目的を達成するためには、全員が互いに協力して仕事を進めなければならない。そのためには、チームメンバー全員が異なる文化や背景を持つユニークな存在であることを尊重することが不可欠である。仕事の進め方やアイデアの表現方法は人それぞれである。多様性を尊重し、異文化を理解することで、私たちはより柔軟に目標達成に集中できるようになった。グループ内の多様性や文化の違いを認識できることは、解決しようとしている問題に取り組む際に、異なる視点を持てるという利点がある。

共修プログラムを通じて、グローバルマインドセット能力、特にグローバルビジョン、多様性の尊重、異文化理解能力を開発し、向上させることができた。また、留学生だけでなく、日本人学生も、日本企業が業務を適切に遂行するためのプロセスを学ぶことができた。例えば、パンフレットの制作では、細部までこだわり、何度も修正を繰り返した。また、太平印刷のワークショップでは、自分の考えをどのように伝えるか、全員が認識することができた。さらに、国内外のターゲットに焦点を当てるために、自分たちの考えを順序立てて効果的に伝えるためのパンフレットのデザイン方法についても教えていただいた。特に、パンフレット制作の会議では、さまざまな意見が飛び交い、一人ひとりがユニークであることを理解し、個人の違いを認識することで、多様性を尊重する姿勢を示すことができた。異なる視点からの意見を考えることで、より包括的な環境を作ることができ、多様性を尊重する能力が向上したことで、結果的に異文化理解も深まった。特に、自分たちとは異なる地域や文化圏の人たちに対して、より感謝し、尊重することを学んだ。例えば、異なる宗教文化に由来する宗教的慣習や食習慣について考察した。また、Q&A パンフレットでは、こうした理解に基づく提案も行っている。

これらに続き、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」などの基礎能力に関しても、いくつかの改善が見られた。グループワークで最も難しいことのひとつは、率先

して行動することである。このプロジェクトでは、ミーティングを通じてプロジェクトに関する会話を開始することで、「前に踏み出す」ことを改善した。このように、間違いを恐れず、あらゆる角度から検討した。全員が主体的に動くことで、より多くのアイデアが生まれ、その中から目標達成に最適と思われるものを選び出すことができた。

私たちは、留学生の悩みをコンパクトにまとめた資料を作成することを主な課題としているので、情報媒体としてパンフレットが最適な選択肢のひとつだと考えた。内容を考えるにあたって、根拠を示すことで掲載する情報の質を高めることができることを学んだ。例えば、他の研究者が行った「外国人留学生の日本入国時の共通の悩み」に関する調査から、私たち自身が大学で外国人留学生として経験した共通の悩みに向けて、コンテンツで見えるようになってきた。また、その内容を受けて、来日前と来日後の時系列を整理し、パンフレットのデザインを考える力を高めた。また、質疑応答の形式をとることで、一般的な手続き的な案内から、留学生が質問しているような、よりパーソナルなテーマへと誘導することができた。また、成果物の達成については、メンバー全員のスケジュールに合わせて自分たちでタイムラインを作成し、さらに事務局からの修正依頼も想定していた。

最後に、チームワークで効率よく課題を達成したことである。ミーティングはオフラインとオンラインの両方で行い、事前に各ミーティングの小目標を設定しておいた。ミーティング時間はできるだけ短く設定し、グループ内の作業効率を高めた。また、グループ内のメンバーに労力が分散されるよう、タスクの分担を決めた。

今後期待できる成果の波及効果（1 ページ以内）

●今後、成果物を大学がどのように活用することが望ましいかを記載してください。

●成果物をさらに波及するための考える取り組みを記載してください。

このパンフレットに掲載されている質問は、日本への留学を希望する留学生からよく聞かれるものである。新入生にとって、このパンフレットを手にするだけで、学生生活の大まかなイメージをつかむことができるのもメリットのひとつである。その結果、誰にでも当てはまるような一般的な質問に答える手間が省け、関係部署はより具体的で個人に関連した質問に対応することに集中できる。このパンフレットには、QR コードと関係先へのリンクが記載されているので、すぐに連絡を取ることができる。

遊び心のあるフォントとカラフルなレイアウトで、親しみやすく、ウェルカムな雰囲気が伝わってくるパンフレットである。このパンフレットは、新入生に質問をすることを躊躇させず、同志社大学の人々が親しみやすいという印象を与える。このパンフレットは、日本への留学に対する不安や懸念について、なかなか会話を始められない人にとって、大きな助けとなるだろう。また、パンフレットから得た情報があれば、それを友人と共有することもできる。

このプロジェクトを知ってもらうために、大学側ができるアプローチには、次のようなものがある。

1. 新入生にメールを送り、**Q&A** パンフレットへのリンクを貼る「新入生からのよくある質問！」。(リンク) さらに質問がある場合は、遠慮なくお問い合わせください" と記載する。
2. 掲示板にパンフレットを掲示する。
3. オリエンテーションでパンフレットを宣伝する。
4. キャンパスマップ、DUET マニュアルなど、通常学期開始前に新入生に配布/付与される他の文書とパンフレットを同梱する。
5. 研究室にパンフレットの印刷物を配り、研究室内のどこかに貼ってもらう。
6. グループ活動を録画し (vlog のようなもの)、ISTC の YouTube チャンネルや ISTC のウェブサイトに掲載する。